

学 界 消 息

1. 第2回東南アジア水文セミナーの開催

東南アジアの第2回水文セミナー、正式には「水文および水理気象において用いられている観測法と測器に関する第2回 ECAFE/WMO 地域間水文セミナー」がWMO とエカフェ (ECAFE) との共催で、1961年末、ニューデリーで開催される。第1回東南アジア水文セミナーは1959年バンコックで開かれ、川畑気象庁観測部長が参加された。

2. 高松地方気象台の新庁舎落成

高松地方気象台では長い間、観測課と、総務、予報、通信の諸課とが4kmほど離れて仕事をしていたが、1960年3月末、伏石町に鉄筋コンクリート2階立の新庁舎が落成し、全課を収容できるようになった。

3. 長風丸進水

全長42m、巾7.35m、深さ3.75m、250トン、500馬力、航海速力10ノットの新観測船「長風丸」の進水式が3月29日石川島重工で行われた。

4. 関原氏米国に出張

本会会員、気象研究所高層気象研究部第2研究室長の関原暉氏は4月15日～22日に米国カリフォルニア大学レークアロヘッド会議場で開催される国際会議「太陽活動と気象現象」に出席するため、4月10日から25日まで出張された。

5. 気象学および大気物理学のヘルシンキ大会が開かれる

1960年7月25日から8月6日にわたって、フィンランドのヘルシンキで、気象学および大気物理学についての国際会議 (IAMAP) が開催される予定である。

6. 大気化学および大気放射能に関するシンポジウムが開かれる

ヘルシンキ大会において8月2日～3日には、大気化学および大気放射能についてのシンポジウムが開かれる。割り当てられた時間を有効に使い、議論を活潑にするために、

気象学・地球物理学上とくに重要で興味のあるいくつかの話題にしぼって議論する。予定表はつぎのとおり。

Session 1. 成層圏の大気化学および循環

- // 2. 大気中のトリチウム、ジュネリウム、酸素の18/16比および水の循環
- // 3. 対流圏の大気化学および wash-out.
- // 4. 大気および海洋中の CO₂ および C¹⁴.

Session 1. —3. に関する論文を募集しているので、希望の方は送って下さい。宛先は

Dr. C.E. Junge

Geophysics Research Directorate

Air Force Cambridge Research Center

L.G. Hanscom Field

Bedford, Massachusetts, USA

7. 電波気象学連絡委員会 (仮訳) の誕生

IUGG (The International Union of Geodesy and Geophysics) と URSI (The International Scientific Radio Union) との間で、Inter-Union Committee on Radio Meteorology を作ることに話がきまった。この委員会は電波伝播に影響を与える気象分野の研究を促進し、無線技術の気象学への応用を助長することを目的とするもので、前の Joint committee on Radio Meteorology の後を継ぐものである。委員は IUGG から6名、URSI から6名、合せて12名で、少なくとも3年に1回は大会を開くことになっている。

理 事 会 便 り

第23回常任理事会議事録

日 時 昭 and 35年 3月 5日 10.00~14.00
場 所 神田一ツ橋 学生会館
出席者 正野, 吉武, 岸保, 今井, 畠山, 磯野,
根本, 神山, 淵各理事 (順序不同)
決 議

1. 大会委員長は大谷東平氏にお願いすることとなった。
2. 大会の大気汚染シンポジウムの話題提供者として、京大 庄司光氏にお願いすることとなった。
3. 数値予報国際シンポジウムの終わった後の分科会に